



Mus

vol.203

2008 December

発行／学校法人 大阪音楽大学

編集／広報誌編集室

〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8

TEL/06-6334-2131 FAX/06-6334-2141

URL <http://daion.ac.jp>

発行日／2008年12月22日



大学祭に集まった人たち(2008年11月1日)

2015年 創立100周年

CONTENTS

中村孝義学長と前橋汀子教授対談／ランチブレイクを学長と!!ほか……………3

20世紀オペラ「真夏の夜の夢」／大学第51回定期演奏会ほか……………10・11

- 山口修教授が広島・福山市の箏製作見学記……………2
- 1月 2月 3月 学校法人大阪音楽大学の催し……………4
- オペラハウスの催し／College information……………5
- 連載「校史点描」<4> 校歌と校章……………6
- オペラ物知り講座／はびきの市民大学・聴講記……………7
- ザ・カレッジ・コンサート／ザ・コンチェルト・コンサートほか……………8
- オペラハウス管弦楽団第42回定期演奏会ほか……………9
- オータムコンサート／若い芽のコンサート／新作展……………12

- ベルリン・フィルの奏者が来学／奨学金給付確認書を授与……………13
- 高槻市で「音楽の宝宝箱」～様々な輝きと出あい～……………14
- 豊中市では「音楽心の旅22」……………15
- 入試ナビ 2月28日から一般入試A日程／音楽院のひろば……………16
- 辻井清幸名誉教授に尼崎市民芸術賞、尾崎比佐子さん奨励賞……………17
- 森川陽子さんが第77回日本音楽コンクールで入選ほか……………18
- 客員教授にジグマノフスキー氏／幸楽会福井県支部記念演奏会……………19
- 大学祭2008／第31回邦楽演奏会／ミレニアム特別講座……………20

「わざ」の世界は 洋・邦を問わず

9月12日、広島県福山市を訪れました。きっかけは前期に私が担当した「日本の伝統音楽」の授業で、箏や三味線とその音楽を概説したとき、楽器製作の現場をぜひとも見学したいという声があがったことでした。音楽学や邦楽器を専攻する受講生6人と卒業生も含めて総勢13人が参加しました。

箏・三味線の菊武厚詞講師も同行し、貴重な後押しがいただけました。

教授 山口 修

した。福山側では、箏研究家の平田勉氏、福山邦楽器製造協同組合理事長の小川賢三氏、新和琴楽社長の和田進氏の協力が得られ、充実した見学ができました。

福山では、一弦琴や大正琴も作られています。なんとといっても箏と三味線。中でも「福山琴」と称される箏の製作が中心です。「福山琴」の名称は、85年に通商産業省(現、経済産業省)から伝統的工芸品に指定されたときのもので、本来の「箏」の字が「琴」になっているのは、常用漢字から「箏」がはずされているのにすぎません。

福山市の箏製作見学記



写真左は桐材の表面に焼きを入れて木目を浮き出させる作業を体験。同右は箏の製作工程について説明を聞く本学学生ら(いずれも新和琴楽で)

それはともかく、江戸時代からこの地で箏が盛んに生産されてきたのは、上方という芸所が近いのと、当地でも伝統音楽の愛好家が多かったからです。履物や家具を作る地場産業の一環に組み込まれて、日本の箏生産の7割から8割を占めるほどになりました。

福山琴と4者連携の新福山箏

ところが、伝統音楽が存亡の危機に瀕するにつれ、当然、楽器製作の現場にも暗い影がさし始めました。幸い、02年度から文部科学

省の新学習指導要領によって、日本の楽器や発声を学校教育の現場に組み込まねばならなくなりました。そこで新たに「新福山箏」が産官民学の連携で開発されたのです。子どもたちでも運搬や調弦が容易にできるものが世に出ました。このプロジェクトに参画した私は、その名称に本来の「箏」の字をあてることを強く主張しました。

洋楽器産業にも邦楽器の技術

箏の場合、原木の桐を東北地方や米国の五大湖地方などから買い入れ、甲挽きという製材加工後、1年以上天日乾燥させ、その後、甲(表板)と裏板を切り出します。そして、彫り、焼き、磨き、飾り付け、金具付けといった複雑な工程を経て完成です。

三味線の場合は、材質が紅木(こうき)や紫檀(したん)ですから、材料の入手や製作工程も大きく異なります。

いずれにしても、浜松市などではいま隆盛を誇っている洋楽器産業の始まりの段階で、邦楽器製作の技術が直接応用される側面もありましたから、洋の東西を問わず、「楽の器」に深く刻み込まれた「わざ」の世界に一步でも足を踏み入れれば、音楽一般の理解が深まることになる実感しました。

公開講座フェスタ 弦楽器の遙かな旅

11月10日 さいかくホール
坂本 利文 講師

イスラム、ヨーロッパ、アジアを結んだシルクロードは、楽器が旅した道でもあります。ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者の坂本利文講師が、弦を弓でこすって音を出す擦弦楽器に焦点を当て、民族固有の音楽や好みに合わせて、楽器が変容する道筋を紹介しました。



35本もの共鳴弦が不思議な残響を宿すインドのサランギ、一本をくりぬいたトルコのケメンチエ、ウズベキスタンのギジャック、中国の二胡、日本の胡弓などシルクロードを行き来したであろう13の楽器を坂本講師が演奏。シンプルな形だけに演奏に大変な修練を要するアジアの民族楽器に対し、ヨーロッパではハーディガーディやニュッケルハルパなど、楽器を機械化して演奏を容易にした民族楽器も好まれました。東西の民族性の違いがここにも現れています。

中村孝義学長 対談 前橋汀子教授

日本を代表する国際的ヴァイオリニスト・前橋汀子教授の「ベートーヴェンヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会」が11月9、16日にザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。ニューヨークを拠点に活躍する江口玲氏のピアノが前橋教授のヴァイオリンと時には優しく、時には壮絶なバトルを展開しながら、全10曲を2回に分けて演奏。終了後、前橋教授はベートーヴェン研究にも関心が深い中村孝義学長と対談しました。(11ページに関係記事)

中村学長 プログラム構成もす

まり演奏する機会がなかったので、楽譜を何度も読み直し、彼ならで

ばらしく、感激しました。昨年はバッハ、今年 はベートーヴ

今後とも学び挑戦

前橋教授 はのフレーズの作り方やテンポ感に

エン。全曲演奏に取り組まれるには、それなりの決意が必要でしょう。

前橋教授 年を重ねる



ことにベートーヴェンの訴える力というものを強く感じるようになりました。彼ほど人生の悩み、苦しみを作品に昇華させた作曲家はいないのでないか。もう一度、全体を見ることで彼に対する新しい発見があるように思い、

構成すばらしい

中村学長 せ、凄絶な世界に入り込んでいった

挑戦の機会を頂きました。

中村学長 個々の作品を際立た

せる読み込みの深さがなかったら、全曲演奏は成功しません。今回、特に力を注がれたことは。

前橋教授 5番、9番以外はあ

き感激しました。前橋教授 まだまだ学ぶことがたくさんあります。これから挑戦していきたいですね。

中村孝義学長と新任教職員の昼食懇談会が10月20日、学生との「ランチブレイク」を学長と!!」が同27日、いずれも学長応接室で開かれました。昼食を摂りながら、日ごろ思っていることを気軽に話し合おうというのが趣旨です。懇談会とランチブレイクは今後も続けていく方針です。

新任教職員は長山慶子准教授(フ

新任教職員と学長懇談会



学生とはランチブレイク



教員からは「これまではオーケストラで自分の技術をいかに磨くかの闘いでしたが、今は学生のためにどうしたらいいか考える生活です」、「専任と非常勤の先生との間に溝があるのを感じます」。

一方、「ランチブレイク」に出席したのは南田明美さん(大4・トランペット)や安齋卓真さん(短

まず、中村学長は「法学部の人々が法律を知らなかったとしても世間では何とも思いません。が、音楽大学出身者が音楽のことを知らなかったら『こんなことすらも』と厳しい目で見られます。このため、音大生として最低限これぐらいは知ってほしいと今、ワークブックを作成中で、来年度から学生に配る予定です」と口火を切りました。

ルット)ら教員3人と岩田季恵さんら職員5人の計8人。自由に何でも話して欲しいという中村学長に、職員は「馬車馬のようだった前の職場に比べ、ゆとりを持って仕事に取り組めます」。「ここは研修ゼロというのが私に合っています。今までも自分の体に染み込ませて仕事を覚えてきましたから」などの意見が出ました。

さらに、中村学長は「昼食時、『ばうぜ』でいたら話し掛けてほしい」と言う、学生たちは「学長には声を掛けにくい」「恥ずかしいし、緊張します」「JP(ジャズ・ポピュラー)は学長とお話する機会ありませんので...」。これを機会に「どこでも声を掛け合おう」と約束してお開きになりました。

1月・2月・3月 学校大阪音楽大学の催し

1月10日(土) 17時	Daionコンサート 夕映えの海とともに ATC南港サンセットホール 出演 油井美加子
1月13日(火) 18時30分	オペラ物知り講座 男声(男性)の魅力 解き明かします MH 講師 中村敬一 演奏 小餅谷哲男 ほか
1月15日(木) 18時	電子オルガンコース・コンサート「フライング・ライヴ2009」 OH 出演 JP専攻電子オルガン・コース生
1月17日(土) 15時	大学・短大合唱演奏会 OH 演奏 大阪音楽大学合唱団 大阪音楽大学短期大学部合唱団
1月25日(日) 14時	第2回オペラ物知り講座inひこね「椿姫」 ひこね市文化プラザエコーホール 講師 中村敬一
2月5日(木) 18時30分	ポピュラーコース・コンサート 豊中市立ローズ文化ホール 出演 JP専攻ポピュラー・コース生
2月12日(木) 18時30分	ジャズコース・コンサート 豊中市立ローズ文化ホール 出演 JP専攻ジャズ・コース生
2月14日(土) 14時	若い芽のコンサート 近代歌曲とオペラの魅力 MH 出演 加藤かおり 中村展子 南奈緒 福岡勲 西聡美
2月14日(土) 14時	第65回ミュージアム・コンサート「スーパーリコーダー カルテット」 音楽博物館 演奏 藤田隆 秋山滋 北村正彦 松浦孝成
2月14日(土) 17時	Daionコンサート 夕映えの海とともに ATC南港サンセットホール
2月21日(土) 14時	第20回 大阪音楽大学学生オペラ「魔笛」(第一日) OH 指揮 小田野宏之 管弦楽 大阪音楽大学管弦楽団
2月23日(月) 18時	第20回 大阪音楽大学学生オペラ「魔笛」(第二日) OH 指揮 小田野宏之 管弦楽 大阪音楽大学管弦楽団
2月26日(木) 18時	ミュージカルコース公演「'09ミュージカルへの招待」 OH 出演 JP専攻ミュージカル・コース生
2月28日(土) 14時	ミレニアムホール特別講座「メンデルスゾーン生誕200年」 MH 講師 日下部吉彦
3月1日(日) 14時	大阪音楽大学第40回吹奏楽演奏会 ザ・シンフォニーホール 出演 大阪音楽大学吹奏楽団
3月5日(木) 18時30分	ザ・カレッジ・オペラハウス開館20周年記念 オペラ・ガラ・コンサート OH 指揮 広上淳一 合唱 ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団 管弦楽 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
3月8日(日) 14時	大阪音楽大学短期大学部第14回吹奏楽演奏会 OH 出演 大阪音楽大学短期大学部吹奏楽団
3月10日(火) 18時	大阪音楽大学第6回ザ・ストリング・コンサート OH 出演 大阪音楽大学・同短期大学部弦楽器専攻生
3月14日(土) 14時	第27回ミュージアム・セミナー「ブータンの仮面劇」 音楽博物館 出演 西岡信雄 伝統芸能団「ブンツォ・ダヤン」
3月16日(月) 18時	大阪音楽大学短期大学部2008年度卒業演奏会(第一夜) OH 出演 選抜卒業生
3月17日(火) 18時	大阪音楽大学短期大学部2008年度卒業演奏会(第二夜) OH 出演 選抜卒業生
3月18日(水) 18時	大阪音楽大学2008年度卒業演奏会(第一夜) OH 出演 選抜卒業生
3月19日(木) 18時	大阪音楽大学2008年度卒業演奏会(第二夜) OH 出演 選抜卒業生
3月23日(月) 18時	大学院演奏会 MH 出演 大学院生

OH/オペラハウス MH/ミレニアムホール

電子オルガンコース・コンサート 「フライング・ライヴ2009」

1月15日(木) 18時 要整理券 ザ・カレッジ・オペラハウス
出演 短大ジャズ・ポピュラー専攻電子オルガン・コース生

大学・短大合唱演奏会

1月17日(土) 15時 要整理券 ザ・カレッジ・オペラハウス
指揮 本山秀毅 里井宏次
演奏 大阪音楽大学合唱団
大阪音楽大学短期大学部合唱団

ポピュラーコース・コンサート

2月5日(木) 18時30分 要整理券
豊中市立ローズ文化ホール
出演 短大ジャズ・ポピュラー専攻ポピュラー・コース生

ジャズコース・コンサート

2月12日(木) 18時30分 要整理券
豊中市立ローズ文化ホール
出演 短大ジャズ・ポピュラー専攻ジャズ・コース生

ミュージカルコース公演 「'09ミュージカルへの招待」

2月26日(木) 18時 要整理券 ザ・カレッジ・オペラハウス
出演 短大ジャズ・ポピュラー専攻ミュージカル・コース生

大阪音楽大学第40回吹奏楽演奏会

3月1日(日) 14時 ザ・シンフォニーホール
入場料 1000円 指定席
【チケット取り扱い】
チケットぴあ ☎0570-02-9999 Pコード 310-899
ABCチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内 窓口受付のみ)
大阪音楽大学コンサート・センター ☎06-6334-2242
指揮 北野徹 演奏 大阪音楽大学吹奏楽団
K.フーサ:この地球を神と崇める
2009年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より
真島俊夫:三つのジャポニスム
B.ピクール:交響曲 第0番

大阪音楽大学短期大学部第14回吹奏楽演奏会

3月8日(日) 14時 要整理券 ザ・カレッジ・オペラハウス
指揮 小野川昭博
演奏 大阪音楽大学短期大学部吹奏楽団

大阪音楽大学 第6回ザ・ストリング・コンサート

3月10日(火) 18時 要整理券 ザ・カレッジ・オペラハウス
指揮 上塚憲一
演奏 大阪音楽大学・同短期大学部弦楽器専攻生

◆オペラハウス公演のチケットのお申し込みは、鑑賞会員の方は電話で、その他の方および整理券ご希望の方は、はがきかFAXでコンサート・センターへ。
ホームページからもお申し込みいただけます。http://daion.ac.jp
[大阪音楽大学コンサート・センター] 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 ☎06-6334-2242 FAX06-6334-2164

ザ・カレッジ・オペラハウスの催し



第20回 大阪音楽大学学生オペラ

W.A.モーツァルト **「魔 笛」** 全 幕
原語上演 字幕付

2月21日(土)14時 2月23日(月)18時

自由席 要入場証(下記の要領でお申し込みください。)

指揮 小野 宏之 演出 中村 敬一

合唱 大阪音楽大学合唱団 管弦楽 大阪音楽大学管弦楽団

【キャスト】 21日 23日

ザラストロ	尾崎彰信	尾崎彰信
タミーナ	橋本恵史	小林 峻
弁者	小玉 晃	小玉 晃
夜の女王	大淵夕季	田丸 葵
パミーナ	川下喬子	友田久美 白根奈々
侍女1	大崎友美 森井美貴	中 侑子 加藤真由美
侍女2	廣瀬徳子 李 裕璃	大島知子 吉田千恵
侍女3	水野智絵	板垣 望 伊藤 誓
少年1	梶原綾華	阪西潤美
少年2	松井里絵子	佐野美香
少年3	糸井 彩	佐野美代子
パパゲーナ	川口りな	加川えり子
パパゲーナ	西村圭市	岩瀬昌弘
モノスタス	藤川晃史	矢野勇志
甲冑の男1	北村僚真	北村僚真
甲冑の男2	矢野勇志	藤川晃史

<学生オペラ入場証のお申し込み方法>

往復はがきに①公演日=1通1公演1人。両日とも場合は2通で。②住所、氏名(フリガナ)、電話番号記入。③返信用はがきの宛先欄を記入して下記までお申し込みください。締め切り1月26日(消印有効)。2月上旬返信予定。

《申し込み・問い合わせ》

大阪音楽大学コンサート・センター「学生オペラ」係

〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 ☎06-6334-2242

ザ・カレッジ・オペラハウス開館20周年記念

オペラ・ガラ・コンサート

3月5日(木)18時30分

入場料 5000円 小・中・高校生1000円 指定席

*当初お知らせした自由席から指定席へ変更になりました。

開館20周年を迎えたザ・カレッジ・オペラハウスは、世界的に活躍する実力派指揮者、広上淳一氏を迎え、オペラハウスにしかできないプログラムでガラ・コンサートをお届けします。第1部はモーツァルトの不滅のオペラ4作。第2部は現代オペラに果敢に挑戦し、オペラ界に一石を投じた20世紀オペラ・シリーズから3作品。ソリストをつとめた歌手が勢ぞろいし、名場面をよみがえらせます。第2部ではあっと驚く趣向をご用意しましたのでお楽しみに。

第1部 モーツァルト・シリーズ

W.A.モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」「コジ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」より

第2部 20世紀オペラ

松村禎三:歌劇「沈黙」より

C.オルフ:歌劇「賢い女」より

鈴木英明:歌劇「鬼娘恋首引」より

指揮 広上淳一 管弦楽 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

合唱 ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団 制作統括 本田耕一

制作担当 2部ナレーター 高橋浩子

出演 青木耕平 荒田祐子 石橋栄実 井上敏典

老田裕子 尾崎比佐子 柏原保典 木澤佐江子

木村孝夫 清原邦仁 楠永陽子 小西潤子

小餅谷哲男 清水光彦 周江平 新川和孝 田中勉

田中友輝子 田中由也 田邊織恵 並河寿美

西垣俊朗 萩原次己 晴雅彦 福島紀子

福永修子 松岡重親 松岡剛宏 松田昌恵

松本薫平 森孝裕

College Information

大阪音楽大学出張講座 オペラ物知り講座 in ひこね vol.2

『椿 姫』

1月25日(日)14時 自由席 前売1500円 当日2000円

ひこね市文化プラザ エコホール

[チケット取り扱い] ひこね市文化プラザチケットセンター ☎0749-27-5200

お話・演出 中村 敬一

ソリスト 田邊織恵 林育子 神田裕史 時宗務

ピアノ 矢崎真理 飯川弓恵

オペラ物知り講座 第4期

1月13日(火)18時30分 ミレニアムホール

男声(男性)の魅力 解き明かします

その4 小餅谷哲男さんの場合

講師 中村敬一

演奏 テノール 小餅谷哲男 ソプラノ 田邊織恵 ピアノ 梁川夏子

受講料1000円 ※事前に申し込みが必要です。

第34回 ミレニアムホール特別講座

『メンデルスゾーン生誕200年』

2月28日(土)14時 ミレニアムホール

2009年はメンデルスゾーン生誕200年の記念年。有名なヴァイオリン協奏曲をはじめ、無言歌、二重唱曲集など、映像をまじえて多彩にご紹介します。

講師 日下部吉彦

演奏 ソプラノ 杉浦希未 アルト 増渕弥生 テノール 田中良和

バリトン 福嶋勲 ヴァイオリン 高森真貴子 ピアノ 富岡順子

受講料 1,000円 ※事前の申し込みが必要です。

《申し込み・問い合わせ》エクステンション・センター

☎06-6334-2251 FAX06-6334-2542

大阪音楽大学卒業生による 若い芽のコンサート vol.15

近代歌曲とオペラの魅力

～19世紀末 芸術の都ウィーンより 20世紀 新天地アメリカへ～

2月14日(土)14時 ミレニアムホール 500円

演奏 加藤おり 中村展子 南奈緒 福嶋勲 西聡美

2009年度 演奏員募集

大阪音楽大学では本学卒業生を対象に、2009年度の演奏員を募集します。募集ジャンルはポピュラー・インストルメント(エレクトリック・ベース、ドラム、ピアノ)です。詳細は本学ホームページをご覧ください。電話でのお問い合わせはエクステンション・センターまで。

応募締切 2009年1月10日(土)

☎06-6334-2249

大阪音楽大学音楽博物館

〈ミュージアム・コンサート/セミナー・シリーズ〉

第65回ミュージアム・コンサート

時空を超えて…「スーパー リコーダー カルテット」

2月14日(土)14時 音楽博物館

入場料 1000円 *事前の申し込みが必要です。

お話と演奏 藤田隆

演奏 秋山滋 北村正彦 松浦孝成

第27回ミュージアム・セミナー

「ブータンの仮面劇」

3月14日(土)14時 音楽博物館

入場料 1000円 *事前の申し込みが必要です。

お話 西岡信雄

演奏 伝統芸能団「ブンツォ・ダヤン」

《申し込み・問い合わせ》大阪音楽大学音楽博物館

〒561-0841 豊中市名神口1-4-1 大阪音楽大学 K号館4階

☎06-6868-1509 FAX06-6865-1221

大阪・塩町通の一角で1915年（大正4年）10月に産声を上げた大阪音楽学校は、入学式や試験、修了式、卒業式もない塾のような存在でした。御大典奉祝唱歌の応募曲が選外1等だったので、永井は「これを校歌にしよう。学校ができるより先に校歌ができるのは幸先がよい」と喜び、11月初旬に自ら作詞。今も歌い継がれる校歌と、校章を作りました。年の暮れには東京音楽学校の協力で大音楽会を催すなど、学校の基礎固めに邁進しました。（文中敬称略）

学校の定員は本科60人（うち男

校史点描

創立百周年に向けて

〈4〉

子20人）▽普通科30人（同10人）▽甲種師範科30人（同10人）▽乙種師範科30人（同10人）▽選科60人（同20人）。当初、約1000人はいたと見られる学生の年齢はまちまち。経歴も多彩で小学校の先生が多く、文部省検定に合格したいと意欲的。大阪府立清水谷高等女学校の卒業生は東京音楽学校を目指しました。ほかには、同府立医科大学（現大阪大学医学部）の学生や画家、芸術家の志望者も。随時入学制なので、新入生が多

いのは1月、4月、9月。これらの月になると、レッスンは初めからまたやり直し。「コールユーブングンは4度以上進んだことはなく、いつもまた2度から。それを何度繰り返したのか」と当時の在校生を嘆かせました。教授陣は最初、校長の永井（ソルフエージ

学校より先にできた校歌

ユ、合唱、オルガン）▽田山省二（楽典）▽両角龍吉、田中清二、大場勇之助（以上ヴ

校歌と校章



左は初期のもの 右は現在の校章

アイオリン）▽牛屋龍（声楽）

▽三善和氣、谷とし（以上ピ

アノ）▽佐藤壽太郎（マンドリン・ギター）の9人でした。

音楽歴は東京音楽学校卒業生、陸軍第四師団（大阪）軍楽隊出身者、文部省検定試験合格者など様々。ほとんどが女学校、中学校の教諭で、七声会の会員もいました。ピアノの三善は日露戦争以来、全国で流行した「戦友」（真下飛泉作

詞）の作曲者です。永井は後継者育成に力を入れ、永井潔、永井（旧姓・廣瀬）八重子らの卒業生を東京音楽学校へ進学させました。また、永井（同・片山）静子、立花ヒロら何かの事情で上京できなかった人には文部省の検定試験を受けさせ、教壇に迎えました。

はや年末に大音楽会



大阪音楽学校教員と七声会の会員。前列中央が永井幸次

永井は生涯に約320曲の校歌を作曲していますが、御大典奉祝唱歌に応募した曲は「女学校2年生程度に作ったのだから、児童には程度が高すぎることは承知していました」と話し、「当選曲だったら全国で歌うことになるが、選外であったのを幸いに」と第1節で建学の時、第2節でその精神を

うたった歌詞を自作しました。

校章は音の字を5つ組み合わせ、紫宸殿（京都御所の正殿）の左近の桜、右近の橘をあしらいい、大阪の大字をかたどっています。デザインは専門家に依頼したといわれ、男子は制服と制帽に、女子は和服の胸に校章を付けました。現在の校章は昭和2年（ころ、選科（夜間）の学生が考案したものです。

開学の年の12月8日、永井は東京音楽学校校長の湯原元一に「音楽演奏願」を出しています。大阪音楽学校の基本金募集のため、東京音楽学校の職員、生徒百数十人が京都へ演奏旅行する際、大阪まで足を延ばし、演奏会を開いてほしいと要請。同27日に天王寺公会堂で実現しました。昼夜2回公演で四部合唱御大典奉祝歌（文部省選定）など演奏したのは二十数曲。

「東京音楽学校園の大演奏会（中略）階上階下溢る、計りの聴衆にて」（12月28日付大阪毎日新聞）と報道されました。その収益金は867円49銭5厘で、主催した大阪音楽学校楽友会会長の永井から校長永井に寄付されました。この楽友会がその後の学校運営に大きな役割を果たします。

オペラ物知り講座 第4期

男声(男性)の魅力 解き明かします
中村 敬一

その3

松本薫平さんの場合



シリーズ3回目は、歌手として今まさに旬を迎えようとしているテノールの松本薫平さん。深い音色で人間ドラマを作り上げる彼の魅力に迫ります。オープニングは梁川夏子さんのピアノで、オペラ「リゴレット」の二重唱「殿様や貴族でない方がいいの:」。お相手はソプラノの三村浩美さん。2人のエネルギーが会場を演出する。

を圧倒します。
オペラ史上、最も有名なテノール歌手といえばイタリアのエンリコ・カルーソ(1873年~1921年)。それまでオペラの中心人物はソプラノで、テノールはプリマに花を添えるお手伝いのようなものでした。ところがカルーソは朗々と歌いながらプリマに迫っていく新しいタイプのテノールを演じ、プリモ・テノール誕生のき

心に染みる黒い声

っかけをつくりました。時代はまさにブッチーニが活躍したところ。朗々と歌うテノールがやがて定着し、この後、世界的なプリモといわれる人たちが次々と出てきます。
—「沈黙」で一緒にお仕事したとき松本さんは「僕の声は飛ばない声」とおっしゃったことがあります。覚えていらっしゃいますか。
声では随分悩みました。

—イタリアでは表面的な声を白い声、びっしりと詰まった声を黒い声といいます。人間を表現するためにはこの黒い声が必要ですね。松本さんは、人の心に染み入ってくる、まさに黒い声の持ち主です。声楽家として大事にしていることは。

音楽の中で言葉があるのは歌だけ。気持ちで歌いたいですね。
—彼のもう一つのすごさは言葉がちやんと聞こえてくることです。松本さんは今39歳。歌い手としてこれから一番、美味しい時期。どう成熟していくのか、気になる歌い手さんの一人です。

♪ 松本さんはトークを挟んで、「カルメン」のアリア「花の歌」、「トゥーランドット」の「誰も寝てはならぬ」、「椿姫」の二重唱「乾杯の歌」などを披露、観客を魅了しました。

精神的支柱 グレゴリオ聖歌

私たちはバッハやモーツァルトが活躍した1700年から後の過去300年の音楽をクラシック音楽と呼んでいます。しかしヨーロッパの芸術音楽には、実は約1000年の歴史があります。講座ではヘンデルの時代からさらに何百年のところにまで

① はびきの市民大学・聴講記

西洋音楽史(講師・白石知雄)

古代・中世の祈りの音楽

年のところまでさかのぼって、クラシック音楽の原点を探ります。



ヨーロッパで記録(楽譜)が残っているメロディーや歌詞が再現できる最古の音楽は、信仰と結びついた中世の「祈りの歌」でした。ローマ・

カトリック教会の礼拝のために歌われた歌で、グレゴリオ聖歌と呼ばれています。人の心を引き入れる、他とは違うスペシアルなものだから楽譜に残したんでしょうね。

同じ時代、日本にも宗教音楽が存在していました。真言宗などの宗教儀礼、「声明」がそれです。経典を読み上げるときに演歌のこぶしのような独特の節をつけて歌

い上げるのが特徴です。大勢の人が一斉に声を合わせ一つの節を歌う「単旋律」のスタイルですが、声の微妙な揺れを音楽として聞く興味深いものがあります。

ユダヤ教やキリスト教の典礼音楽もまた、声明と同じ様に全員が声を合わせ、語尾を微妙に伸ばしたり、抑揚をつけたりして歌われていました。声を合わせるという行為には特別な力を発揮するということ意味があったのではないかと。

教会の中にも様々なアイテムがちりばめられていました。ステンドグラスから差し込むやわらかい光。高い天井から出る残響はエコーがかかったような効果があります。その独特な空間は神の国をイメージし、人々は音という目には見えない手段を様々な形で工夫しながら神と交信していたのではないのでしょうか。グレゴリオ聖歌の旋律は、ベルリオーズの「幻想交響曲」やレスピーギの「ローマの松」の中にも見られます。

♪ この「西洋音楽史」は白石知雄講師(音楽学)が「はびきの市民大学」で行っている講座を要約したものです。本誌ではこの講座の内容を10回に渡って掲載します。



第8回ザ・カレッジ・アンサンブル・コンサート

11月10日 オペラハウス

28組76人の中からオーディションで選ばれた阪口歩さん、清水美花さん(ピアノ二台四手、いずれも大4)ら8組34人が四重唱や木管五重奏、打楽器二重奏、金管五重奏、クラリネット六重奏などに出演。聴衆から大きな拍手を受けました。



オーディションで選ばれた学生4人が演奏。ヴァイオリンの農頭奈緒さん(大2)はP・d・サラサートの「カルメン幻想曲」など2曲、ソプラノの田丸葵さん(大学専攻科)はS・ラフマニノフの「ヴォカリーズ」作品34の14」など5曲、クラリネットの島田香さん(大4)はA・メサジェの「コンクールのための独奏曲」など2曲、ピアノの上原慎太郎さん(大3)はJ・S・バッハの「シャコンヌ」など2曲を発表しました。農頭さんは二十歳になって初めての演奏会。私にはこの舞台が大人への出発点。

第19回ザ・カレッジ・コンサート

11月17日
オペラハウス



第20回ザ・コンチェルト・コンサート

11月13日 オペラハウス

今仲明香さんがJ.ウィリアムズの「バス・トロンボーンとオーケストラのための協奏曲」、藤田紗織さんがJ.イベールの「フルート協奏曲」、小橋綾実さんがC.M.v.ウェバーの「クラリネット協奏曲 第1番」を持ち味を生かした豊かな表現力で演奏しました。管弦楽は小田野宏之特任教授指揮のオペラハウス管弦楽団。



第15回ジュニア・カレッジ・コンサート

11月21日 オペラハウス

清楚な二部合唱が初々しい金静実、原霞、岡菜々子、渡辺愛さん、迫力ある打楽器の独奏で聴衆を釘付けにした市川拓平さん、軽やかで躍動的なアンサンブルを聴かせたクラリネット二重奏の澤亜友美、中井美緒さんらオーディションで選ばれた12組27人の短大生が出演し、ソロやアンサンブルで演奏を披露しました。



西宮でブラス・フェス 本学吹奏楽団が出演

11月16日 アミティホール

大阪音楽大学吹奏楽団（指揮・北野徹教授）は11月16日、西宮市のアミティホールで催された「ブラス・フェスティバル2008」（同市、教委など主催、大阪音楽大学協力）にゲスト出演し、P.クレストンの「プレリュードとダンス」など4曲を熱演し、聴衆から大きな拍手を浴びました。



「音楽と出会うまち」をめざす同市は吹奏楽の分野でも多くのバンドが地域で活動。全国コンクールでも優秀な成績を収める団体を輩出してきました。この4月、中核市への移行を機に、ますますの吹奏楽振興とレベルアップを図ろうとブラス・フェスティバルを計画。15日には13の楽器ごとのクリニックも開かれ、同市内の中学、高校の吹奏楽部員が本学教員から専門的な指導を受けました。



オペラハウス管弦楽団 第42回定期演奏会

11月30日 ザ・カレッジ・オペラハウス

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団の首席指揮者、チャン・ユン・スン氏の指揮で定期演奏会が開かれ、L・v・ベートーヴェンの「序曲 レオノーレ 第3番」、長山慶子准教授のフルートでW・A・モーツァルトの「フルート協奏曲 第2番」、J・ブラームスの「交響曲 第4番」が演奏されました。長山准教授「室内乐的かつオペラティックな作品で、情景の変化や朗々と歌うアリア、滑稽なキャラクターなど楽章ごとにオペラの場面を思い浮かべて演奏しました」

チャン氏「ベートーヴェンには強さ、ブラームスには深さ、エスプレッシヴオな表現を求めました。オーケストラは練習を通じてブラームスから多くを新たに見出し、変化したと思います」

第23回ピアノ・グラランド・コンサート

11月20日 オペラハウス

選抜された大学生4人が小田野宏之特任教授の指揮でザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団と共演しました。



桑沢美南さんと根本みずきさんの1年生コンビはW・A・モーツァルトの「2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K・365」、金子剛さん（大3）はモーツァルトの「ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K・466」、井上いづみさん（大3）はL・v・ベートーヴェンの「ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58」を演奏。

4人は晴れの舞台で練習の成果を発揮し、これからつながる貴重な体験をしました。

夜の夢 参加公演



岸さん 私としては新しい試みでした。いつもは真っ黒に書くのですが、今回は本質だけを残して、真っ白に書くのに苦労しました。

前田さん 今まで聴衆の一人でしかなかった大学定期演奏会に、自分自身がかかわることが出来て本当にうれしく思いました。

丸山さん 2日前に大阪フィルとショパンを共演したばかりなので大変でしたが、私の持てる力を出し切り弾かせていただきました。

西村さん 古典派とかロマン派などの曲ばかりだったのが、現代のしかも同期の人らの作品を本人の前で歌うので、やはり緊張しました。

小田野特任教授 特別なプログラムだったので、学生たちが面食らったところもあったと思いますが、コーラス、歌のソロもがんばり、曲の良さを伝えることが出来たと思います。丸山君は立派な演奏してくれました。ブルックナーも本番では本当によくやってくれました。



大阪音楽大学

第51回定期演奏会

ブルックナーの大作に初挑戦

大阪音楽大学第51回定期演奏会は12月5日18時30分からザ・シンフォニーホールで催されました。

第1部は岸幸巨さん（08年院修）が作曲した委嘱作品「雲」（朗読・西村圭市さんⅡ院2）、続いて前田恵美さん（07年大卒）の委嘱作品「L'aria」こと座物語り限らない光（バリトン独唱・西村さん）を演奏。ピアノ独奏は丸山耕路さん（06年大卒）で、F・リストの「ピアノ協奏曲第1番変ホ長調」を披露しました。岸さん、前田さん、丸山さんの3人は日本音楽コンクールの上位入賞者。西村さんも学生音楽コンクール声楽部門大学一般の部で上位入賞しています。

第2部は本学管弦楽団（指揮・小田野宏之特任教授）がA・ブルックナーの大作「交響曲第4番変ホ長調ロマンティック」（ノーヴァク版）に初挑戦しました。

賞会



モーツァルトピアノ協奏曲 全曲演奏会 vol.VII

「モーツァルトピアノ協奏曲 全曲演奏会 vol.VII」（制作統括・川上孝子教授）が11月6日、ザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。油井美加子准教授と鳥居知行、星賀規子両講師が小田野宏之特任教授の指揮するオペラハウス管弦楽団と共演、モーツァルトの足跡をたどりました。

曲目はモーツァルト自らが「大協奏曲」と呼んだ「第15番 変ロ長調 K.450」、彼が愛弟子のために書いた「第17番 ト長調 K.453」、戦前、日本で最も愛されたといわれている「第26番 ニ長調 K.537 戴冠式」。



真夏の文化庁芸術祭

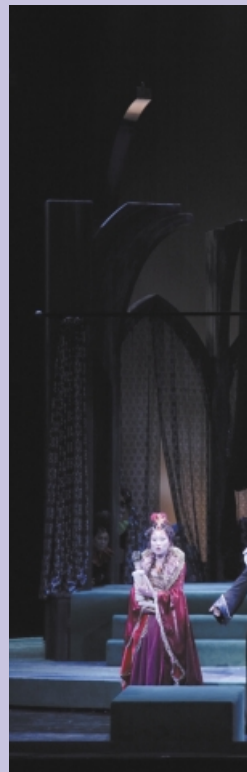
実力派に若手体当たり

第42回オペラ公演―20世紀オペラ・シリーズ「真夏の夜の夢」(B・ブリテン作曲、全3幕)は10月11日と13日、ザ・カレッジ・オペラハウスで催されました。平成20年度文化庁芸術祭参加公演で、両日ともほぼ満員でした。

原作はシェイクスピアの同名の喜劇。アテネの森を舞台に、妖精の悪戯に出あったために人間たちがとんだ騒動に巻き込まれる物語。観どころは実力派の歌手たちに若手がどのような歌唱を繰り広げるかで、オ

ペラハウス管弦楽団を指揮したチャン・ユンスンさんは「初日は緊張している人多かったが、それはそれで良いところもあり、2日目は慣れてきました、やはり良いところと悪いところがありました」と話していました。

初日は土曜日、2日目は祝日で、ともに昼間の公演。中日の日曜日は大津・びわ湖ホールでR・シュトラウスの「サロメ」を鑑賞、一泊してオペラハウスを訪れた関東からの聴衆の姿が目を引きました。



前橋汀子リサイタル

～ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会～

L.v.ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全10曲が200年の時を越え、ザ・カレッジ・オペラハウスによみがえりました。11月9、16日に行われた演奏会は日本を代表する世界的ヴァイオリニスト・前橋

汀子教授と国際的ピアニスト・江口玲氏の真剣勝負。

山場は2日目最後の「第9番 クロイツェル」。第1楽章はこれまでの曲とは違い、異種格闘技のような協奏曲的二重奏。ヴァイオリンとピアノが全力で張り合う、その激しさに会場はベートーヴェンの魂が演奏者に乗り移ったかのような錯覚さえ覚えました。



第5回ザ・ローレル・コンサート

2007年度大阪音楽大学音楽学部最優秀賞受賞者演奏会「第5回ザ・ローレル・コンサート」は10月30日19時から大阪市中央区のいずみホールで開かれ、3人が出演しました。

栗田真希さん(院1・ピアノ)はF.ショパンの「ピアノ・ソナタ 第3番 短調

作品58」を演奏。「舞台に出て行った瞬間、聴衆の皆さんの大きな拍手に迎えられ、本当に気持ちがよかったです。演奏はまだまだ未熟なことは分かりますが、精いっぱい演奏が出来、満足です」

大崎友美さん(大専・ソプラノ)はG.F.

ヘンデルのオペラ「アタランタ」より『いとしい森』、S.バーバーの「雨は降り続く」などバロックから90年代のものまで幅広く披露。「最初は緊張しましたが、歌っているうちにだんだん気持ちを集中することができ、楽しく歌うことができました」

山下真里子さん(08年大卒・サクソフォーン)はアンサンブルのすばらしさを伝えたい、とR.ブートリーの「ディヴェルティメント」などを選曲。「ちょっと興奮しました。リハーサルとは響きが違うのでびっくりしましたが、すごくいいホールなので、まったく問題はありませんでした」



羽曳野
淡路島

心づかんだオータムコンサート

小学生から高齢者までの心をつかりとつかみました——私たち大学専攻科生26人は学修の成果を

大専代表 石井晶子記

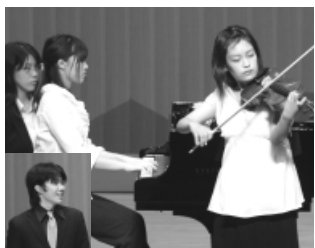


学外で発揮する特別演奏実習としてオータムコンサートを企画。10月11日にLICはびきの(羽曳野市)、11月19日に洲本市文化体育館文化ホール(淡路島)でそれぞれ開催しました。

LICはびきのではサククス、合唱、ピアノ連弾、パイプオルガン独奏やピアノ1台を5人でローリング演奏するパフォーマンスプレイも。淡路島では第1部がヴァイオリンやトランペット、ピアノ連弾、重唱や合唱。第2部は日本語とドイツ語によるオペラ「魔笛」のハイライト演奏。アンコールは

第22回新作展

第22回新作展では、審査で選ばれた8作品が演奏されました。前半はヴァイオリンが濃密なロマンティズムをたたえた旋律を奏でる雪川貴博さん「写真左下」の「弦想曲」、中村徹さんの2本のフルートとピアノによる流麗な「BACHの名による幻想曲」に続いて、浮遊する感覚をやわらかなユーフォニウムとテューバのアンサンブルでつづった内兼小康美さんの「Drift in

審査で選ばれた
8つの作品演奏

the Air」、三島由紀夫の詩をバリートン独唱と弦楽四重奏で苛烈に描いた坂田拓也さんの「火」「沐浴」。

「ふるさと」を学生全員とお客様が一緒になって歌いました。両日ともお客様から温かい拍手



若い芽のコンサート

ミレニアムホール

若い芽のコンサートが10月18日と11月15日にミレニアムホールで開催されました。

10月18日は「バロック時代は、たて笛もよこ笛もフルートでした」とリコーダー奏者の山本佳美さんが、当時花形楽器だったリコーダーのヨーロッパ各地の呼び名を紹介。チェンバロの小林咲喜子さん、ヴィオラ・ダ・ガンバの扇能沙苗さんとテレマンのトリオ・ソナタなど典雅な古楽アンサンブルを披露。続いて大塚由貴さんのフルート、藤井快哉講師のピアノで、「ミニヨン」や「カルメン」など、オペラの名曲をフルート用に編曲した作品が華やかに演奏されました。

後半はフルートと刻々と移り変わるパーカッションが巧みな山本真理子さんの「Delirium」、対照的な主題を清澄な弦楽三重奏で融和させた手柴里美さんの「The Double Think」、森に飛び交う鳥の気配をフルートで繊細に表現した杉本悠さんの「森の鳥」、チェロのポルタメント、クラリネットの妖しい音色が題名となった媚薬を香り立たせる松本栄成さんの「サテュリオン」がそれぞれ演奏されました。

11月15日は「詩」をロマンティックな旋律に、「踊り」をはじけるリズムに託した3組のジョイント・コンサート。木村彩乃さんがピアノ独奏でショパンの「バラード第3、4番」、ヴァイオリンの田久保友妃さんとピアノの井上千瑞さんがショーンソンの「詩曲」を演奏。ピアノデュオの西尾麻貴さんと松本幸子さんが、ブラームスやミヨーらの作品を演奏しました。

ベルリン・フィルのフックスさん（クラリネット）来学

ドイツ・ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のソロクラリネット奏者、ヴェンツェル・フックスさんが11月28日、中村孝義学長を表敬訪問。学長室で懇談後、大学

学長を表敬訪問

第51回定期演奏会に向けてO号館で練習していた学生オーケストラの授業を見学しました。

フックスさんはオーストリア生まれ。19歳でウィーン・フィルク



④は学生オーケストラの練習を見学するフックスさん
⑤は中村学長を表敬訪問し握手。

スオーパー・ソロ奏者。93年からベルリン・フィルで活躍している世界的プレーヤーです。ベルリン・フィルは3年ぶりの来日。11月23日の川崎を皮切りに東京、大阪、

学生らはゲネを見学

西宮、岡山の5都市で7公演あり、大阪公演は11月29日。
フックスさんは28日15時半ごろ、大阪公演の前に、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団の吉延勝也

さんと来学。中村学長の案内でO号館へ。練習中の学生に「29日のゲネを見学しませんか。全員OKです」と約束。

学生にとつては、ベルリン・フィルのゲネ見学というまたとない機会。29日は36人がザ・シンフォニーホールを訪れました。学生オーケストラのインスペクター、仁科秀隆さん（大4・トロンボーン）は「CDを聴きましたが、実際のサウンドは想像をはるかに超えていました。自由で仲のよいゲネの雰囲気は楽しく、いい思い出になりました」と話していました。

交換留学の提携校を知っていますか

本学学生の皆さんは交換留学の提携校を知っていますか。08年度からスタートした「海外留学助成金制度」です。提携している大学または音楽（学）院に半年あるいは1年間留学を希望

2月12日～3月5日
希望学生の申込受付

で、かつ学科成績が優秀な学生。短大は1年で第2セメスターの専攻実技の成績が「秀」でかつ全科目の平均成績が優秀な学生。

提携校は現在、韓国・啓明大学校音楽・舞台芸術大学、中国・上海音楽学院、ドイツ・デトモルト音楽大学の3校ですが、広げてい

所定の申込書に必要事項を記入（1年間と半年間留学の同時申請は不可）。募集期間は09年2月12

日～3月5日で平日は10時～17時、土曜日は10時～13時（ただし最終日は10時～15時15分）。成績表については3月下旬に配布予定です。申込時点での成績確認はできませんので、皆さんの判断で申し込んでください。

フレッシュユマンらに奨学金の給付確認書

08年度大阪音楽大学奨学制度に基づく大学と短大（新一年生対象）のフレッシュユマン奨学金、それに大専と短専各奨学金の給付確認書授与が10月7日、A号館2階会議

室であり、中村孝義学長が大学4人、大専2人、短大3人、短専1人の計10人に確認書を手渡しました。この制度は新生が対象で、申請者の中から選ばれた大学、短大生各に各50万円、大専、短専生各20万円の奨学金が支給されます。適用者は次の皆さんです。

【大学】前田満（音楽）、根本みずき（ピアノ）、鷹羽萌子（クラリネット）、高崎真央（ヴァイオリン）【大専】大崎友美（音楽）、田丸葵（同）【短大】澤真紀（音楽）、外山舞（サクソフォーン）、浦田友実（電子オルガン）【短専】田中千曉（音楽）

音楽の宝石箱く様々な輝きとの出あい

共催 大阪音楽大学 高槻市生涯学習センター

音楽の宝石箱く様々な輝きとの出あい（共催・学校法人大阪音楽大学、高槻市立生涯学習センター）は10月31日から12月5日までに計5回、同センターで開催されました。また、11月7日はオブションとして本学音楽博物館の見学もありました。受講したのは延べ383人でした。

宮廷の音楽会へようこそ

10月31日 嵯峨山 康子講師

国王付き音楽家による楽団は3つあり、シャペル付き楽団は国王のためのミサや宗教儀式の典礼の音楽を作曲、演奏。大エキュリ付き楽団はルイ14世の豪華な祝祭、儀式など野外での演奏を担当。シャンブル付き楽団は宮廷バレエや儀式、祝祭日には国王の晩餐会で演奏しました。



次いで、当時使われていた楽器からヴァイオリン（嵯峨山講師写真左）、フルート・フラウト・トラヴェルソ（堀古昭子さん同中央）、ヴィオラ・ダ・ガンバ（頼田麗さん同右）を紹介し、F・クープランの「新しいコンセル」『劇場風』などを演奏しました。

カルメンの世界へようこそ

11月14日 荒田 祐子講師



G・ビゼーのオペラ「カルメン」は1875年にパリで初演されましたが、余りにも刺激的で主役の女性がジプシーであったことから観客の不評を買い、散々でした。ところが、失敗は初演だけ。2回目からは、不道德さや不適切さがかえって評判を呼び、観衆が増え続けます。初演の3カ月後にはビゼーが死亡。公演はこの間33回にのぼり、今では世界中で最も人気のある作品といわれています。作品解説の後、石橋栄実さん、小餅谷哲男さん、迎肇聡さんも登場。佐藤明子さんのピアノで「ハバネラ」や「闘牛士の歌」などを歌い、見どころを紹介しました。

尺八の神秘

11月21日 田嶋 直子講師

尺八はまず構えが重要。そして、集中力を高め、唇の形をきれいにする。つまり、基礎をしっかりと確立した後、楽器を自由にコントロールすることです。

その構造は独特で、自分の唇から飛び出した息がある時間、空間を飛び楽器に当たるということに視点を置くことが大事です。尺八は息をつくり終わると、音は短い時間ながらしばらく鳴りま



す。自分の出来ることは息をつくることだけと考えるべきです。その息の中にいい構えとか、いい音を出すといったいろいろな要素が含まれる、と説明し、「打波の曲」「鶴の果籠」などを演奏しました。

ニューオリンズスタイルジャズの楽しみ

11月28日 河村 直樹講師

南北戦争以前のニューオリンズには、当時この地を統治していたフランス人と黒人の混血、クレオールと呼ばれる人たちがいました。

彼らには白人並みの身分が与えられていましたが、北軍の勝利で奴隷制度が廃止されると扱いは一変。クレオールは他の黒人同様、人種差別を受けることになりました。

生活に困った彼らは軍隊崩れや廃品となった楽器を手にした黒人たちと融合し、紅灯街で演奏を始めました。黒人の魂の叫び。これがジャズの起源だったのです。トランペットの河村講師とその仲間たちが北軍の軍歌「リパブリック賛歌」や「BASIN STREET BLUES」などを演奏しました。

『あたまでなくからだ』で音楽を感じる方法

12月5日 小谷 康夫講師

上へ、上へと向かう西洋音楽のリズム。それを体で感じるにはどうしたらいいでしょうか？

リズムを感じるのに大事な体の部分は、ずばり「腰」。打楽器奏者の小谷康夫



講師が、手拍子やジャンプを通して、受講者にリズムを体で感じる手ほどきを。次いでマリンバやヴィブラフォン、ドラムなどさまざまな打楽器の持つサウンドやリズム・パターンを紹介。卒業生の福

井鈴、真田千依、瀧住まどか、山縣雅志さんとリズムが軽快なモスコフスキーの「スパニッシュダンス」、リズムの揺れ、アゴーグが特徴的なブッチーニの「誰も寝てはならぬ」などを演奏しました。

音楽・心の旅22

主催 豊中市立中央公民館 後援 大阪音楽大学

大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅22」(主催・豊中市中央公民館、学校法人大阪音楽大学)は10月16日から11月13日までの間、計4回にわたって同公民館4階多目的ホールで開かれ、延べ214人が受講しました。

帝劇オペラからミュージカルへ

10月16日 太田 哲朗講師

日本の音楽劇は120年前の明治時代に始まりました。1911年に誕生した帝国劇場では歌舞伎の合間にオペラも上演。『今日は三越、明日は帝劇』という言葉が当時の流行語になりました。



大正時代には浅草オペラや少女歌劇のお伽歌劇が次々登場。レビユーは日本中を席巻しました。60年代に始まった宝塚歌劇のブロー

ドウエイ作品は空前の大ヒット。これを機に、新たなミュージカルブームが列島を駆け巡ります。宝塚出身の真仲ひかるさんが七ッ谷ゆみさんの伴奏で「サウンド・オブ・ミュージック」などを熱唱しました。

歌い継ぎたい心の歌、日本の歌

10月23日 西垣 俊朗講師
明治・大正・昭和・平成

『ごらんよ坊や あのを』と優しく呼びかける「母の歌」。今ではすっかり忘れられた昭和の国民歌謡です。テノールの西垣俊朗講師が、明治から平成まで時代を映す名曲の中から、これからも歌い継ぎたい曲として「七里が浜の哀歌」「宵待草」「長崎の鐘」「神戸わが夢のまち」など16曲を、ソ

プラノの影山貴美子さん、ピアノの佐田めぐみさんと演奏しました。また「恋はやさし野辺の花よ」を用いて明治のノンビブラート、大正のちりめんビブラート、昭和の演歌調ビブラートと典型的な歌唱法を再現。作風と歌唱法の両面から時代の変遷をたどりしました。



オペラのテノールって何?

11月6日 小餅谷 哲男講師



テノールには声の密度によってレッジャーロからリリコ、スピント、ドラマティコまでいろいろな種類があります。『セヴィリアの理髪師』の伯爵ならレッジャーロ、『アイーダ』のラダメスならリリコというように、オペラの役柄にふさわしい声を選ばれます。ヒーローを演じ華やかに見えようと、人間の限界に迫る高音を、裏声と

表の声を混ぜるテクニクを用いて命を削って歌い、舞台袖で震えるほど緊張している、と小餅谷哲男講師がテノール歌手の本音をちらり。越後ゆかりさんのピアノで、『トスカ』の「星は輝き」などオペラのアリアを熱唱しました。

邦楽における「歌」のいろどり

11月13日 片岡リサ講師



「六段の調」を含む段物や箏曲組歌を作曲し、現在の箏曲の基礎を確立しました。三味線は

16世紀に中国から琉球(沖縄)を経て堺に入り、改良されました。地歌は江戸時代に上方で演奏された三味線による家庭音楽で、端唄物や手事物が生まれ、京風手事物が大流行しました。また、宮城道雄は地歌の手事物や歌曲、箏曲童謡などを手がけた天才作曲家。片岡講師はこれらの解説を挟んで「六段の調」「鶴の声」「夕顔」などを演奏しました。

■2009年度推薦入学試験結果

大阪音楽大学 音楽学部	公募推薦		特別推薦	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲学科	7	4	1	1
作曲専攻	6	3	1	1
音楽学専攻	1	1	0	—
声楽学科	21	17	14	14
器楽学科	94	87	49	49
ピアノ専攻	45	43	26	26
オルガン専攻	0	—	0	—
管楽器専攻	44	39	16	16
弦楽器専攻	1	1	2	2
打楽器専攻	4	4	5	5
邦楽専攻	0	—	0	—
合 計	122	108	64	64

大阪音楽大学短期大学部 音楽科	公募推薦		特別推薦	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲コース	3	3	4	4
声楽コース	18	18	11	11
ピアノコース	52	51	28	28
管楽器コース	34	33	22	22
弦楽器コース	3	3	0	—
打楽器コース	7	6	2	2
邦楽コース	1	1	0	—
ジャズコース	8	8	3	3
ポピュラーコース	35	32	7	7
ミュージカルコース	11	11	0	—
電子オルガンコース	5	5	6	6
合 計	177	171	83	83

一般入試A日程2月8日から

国語・外国語などの学力、ソルフェージュや楽典などの音楽的基礎



こんにちは、受験アドバイザーのともみです。年が明ければセン

力を問います。面接や、推薦書の提出が必要だった人物重視の推薦入試とは性質が異なります。より実力を発揮できるように、得意な部分に更に磨きをかけて受験に備えましょう。

09年度一般入学生試験A日程

試験日 2月8日(日) 11日

出願期間 1月17日(土) 23日

(金) 必着

これからのイベント

こども・音楽2

—導入期の音楽トレーニング

1月24日(土) 14時～15時20分

講師:鹿島正昭(付属音楽幼稚園園長)

ソルフェージュは音楽にアプローチするための基礎能力開発を使命としていますが、こどもにとってはそれが音楽の全てであり、喜びも感動も無くてはなりません。単なる訓練であってはならないのです。

動く・歌う・聴く・書く・弾く・作ると非常に多岐にわたり、あれもこれもソルフェージュと言えるほど、その内容は果てしなく広がりを持っています。そんなソルフェージュ教育の実際の現場での多くの経験を元に、



導入期の音楽トレーニング・ソルフェージュ教育=写真=に必要なこと、気をつけなければならないことなど実例を挙げながらわかりやすく紹介します。

ヤマハピアノ演奏グレード

4・5級攻略セミナー

2月13日～3月13日

毎週金曜日18時～

毎年好評のヤマハピアノ演奏グレード攻略セミナーを今年も2月に開講します。ピアノ学習者にとって難所の即興演奏を



音楽院のひろば

中心とした5週連続の講座です。現役のヤマハハイグレード試験官、栢野晴子氏=写真=を講師に招き、演奏グレード攻略セミナーを開講致します。2月～3月の金曜日18時～19時30分の合計5回講座(最終回のみ20時30分まで)。申し込み締め切りは2月6日です。なお好評の講座のため締め切り前でも申し込み多数の場合はキャンセル待ち、もしくは別の時間帯での受講となる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

09年1月期講座

09年1月期講座の募集受付期間は終了していますが、定員に余裕のある講座については今からでも受講が可能です。お問い合わせいただくか、音楽院ホームページで申し込み状況をご確認ください。

個人レッスンは随時受付中

音楽院の個人レッスンは、4歳以上ならいつからでも始めていただけます。楽器やジャンル、レッスンの目的やレベルなど幅広く対応が可能です。「音楽」を習いたい方はぜひご相談ください。



パンフレットのご請求、お申し込みは



大阪音楽大学付属音楽院

〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8

TEL 06-6334-2909 FAX 06-6334-2675

URL <http://www.daion.ac.jp/ongakuin/>

E-mail ongakuin-support@daion.ac.jp

窓口・電話受付時間 月～土:10時～17時

日曜・祝日はお休みです。

辻井名誉教授に尾崎市民芸術賞

ソプラノの尾崎さんは奨励賞

吹奏楽の指導に力を注ぎ昨年、本学を退任した辻井清幸名誉教授が、兵庫県尾崎市の平成20年度市民芸術賞を、ソプラノ歌手の尾崎比佐子さん（85年大卒）が市民芸術奨励賞を受賞しました。

吹奏楽指導44年



辻井名誉教授は64年から尾崎市吹奏楽団の指揮者を務め、全日本吹奏

楽コンクールで金賞を16回受賞、78年にはオランダで開かれた第8回世界音楽祭に参加し金賞に輝くなど海外でも目覚ましい足跡を残しました。最近ではアルカイックホールを拠点に全国規模の催しを行い、「プラスの街尾崎」のイメージ向上

全国的に高い評価



関西二期会に所属する尾崎さんは楽劇「ばらの騎士」やオペラ「椿姫」「コジ・ファン・トゥッテ」などに

出演。最高音から中・低音に至る広い音域と優れた発声、細かい技巧で主役を務め、全国的に高い評価を受けるなど、その活躍ぶりが認められました。

生涯スポーツ功労者 田名網講師が受賞



新体操の田名網陽子講師が文部科学省の平成20年度生涯スポーツ功労

者に選ばれました。田名網講師は88年から兵庫県体操協会副会長などを務め、新体操の普及、発展に尽力。アテネ、シドニーオリンピックに出場した村田由香里選手らを育ててきました。

ボクたちクラシックつながり ～ピアニストが読む音楽マンガ

青柳いづみこ教授



ピアニストとして、文筆家として活躍する本学の青柳いづみこ教授が文春新書「ボクたちクラシックつながり～ピアニストが読む音楽マンガ」(文藝春秋・230頁、730円＋税)を出版しました。

青柳教授にとって12冊目のこの著書は「のだめカンタービレ」「ピアノの森」などの音楽マンガを題材にした読み物。「マンガの登場人物たちの栄光と挫折は、音楽家たちの心の叫びを代弁したもの。音楽マンガを語ることによって、その叫びを扉の外に出したいと、強く思いました」と著者自らが語るように、音楽マンガを演奏家の目で読み解き、様々な疑問に答えています。

音楽家の心の叫び代弁

第2章「楽譜どおり弾け!」には、特殊研究で指導し、日本音楽コンクール第2位に輝いた丸山耕路さん(06年・大卒)が登場します。彼はテンポを自由にゆらして、とうとうと歌い上げる斬新な解釈の持ち主。「個性を活かしながら音楽の約束事から離れないようにするには、どうアドバイスすればいいのか。正直言うて悩みました」。青柳先生が自問自答する下りは、ナマの話として重みがあります。

高名なピアニストも多数登場し、青柳教授の交友関係の広さにも驚かされます。話の展開、引出しの多さは読者を飽きさせず、いつの間にか音楽の世界へ。プロを目指す学生、クラシックに関心のある人にとっては格好の入門書。

オペラ研究部50年 記念パーティ開く



本学オペラ研究部(顧問・阪上和夫教授、若林香名部長ら22人)が9月6日、学生サロン「ぼうぜ」で結成50周年記念パーティーを開きました。磯野清名誉教授ら1期生8人を含む47人が出席、若林部長と阪上教授があいさつした後、現部員によるコンサートなどを催し、今後の部発展を誓いました。

同研究部がスタートしたのは57年(昭和32年)1月。当時の大阪音楽短期大学が芦屋女子学園講堂

で出張演奏会としてA・サリヴァンのオペレッタ「ミカド」を上演した際、装置を担当しました。07年に結成50年を迎えて、同部の公演記録をまとめ始め、先輩らに資料提供を呼びかけています。

また、06年11月に50周年記念としてミレニアムホールでオペラ・ガラ・コンサートを催し、07年はW・A・モーツァルトの「皇帝テイトの慈悲」を公演。09年4月は同「フィガロの結婚」です。

森川さん 入選、岩谷賞

第77回日本音楽コンクール（毎日新聞社、NHK共催）作曲部門の本選が10月21日、東京・初台の東京オペラシティで行われ、森川陽子さん（02年院修）の作品「天と光と」が入選、聴衆賞に当たる岩谷賞も併せて受賞しました。

一筋の希望（光）が差す情景をイメージし、ソロパートはアルトフルート、フルート、ピッコロと楽器を持ち替えて光を表現しています。

優れた音感覚

日本音楽コンクール

「天と光と」は萩原朔太郎の詩「いみじき笛は天にあり」を題材にしたもの。この詩に感銘を受けた森川さんは「いつか音楽として表現したい」と心の中に温めていた、といえます。作品は協奏曲形式で、闇の中に佇んでいる人々に



ハートを音に

作曲部門には全国から45点の応募があり、譜面審査の結果4作品が本選に進みました。本選では東京シティ・フィルが4作品を演奏、

池辺晋一郎氏ら11人が審査に当たりました。

「天と光と」について池辺氏は「意図が明確で音感覚も優れているが、音響が類型的なフィギュレーションに陥る場面があり、惜しかった」と講評（11月19日毎日新聞朝刊）。3位入賞は逃したものの聴衆が決める岩谷賞を獲得しました。

西馬さん4位

第25回日本管打楽器コンクール（日本音楽教育文化振興会主催）の本選が11月19日、東京・文京区



日本管打楽器コンクール

のバリオホールで行われ、トランペット部門に出場したザ・カレッツ・オペラハウス管弦楽団準団員の西馬健史さん（06年・短大卒）が4位に輝きました。

コンクール 敬称略

■第2回中国音楽国際コンクール 専門の部ピアノ1位 最優秀中国作品演奏賞 橋本深雪（83年大専修・ピアノ）

▽ピアノ1位 持田賀津子（96年大卒・ピアノ）= 7月27日、神戸文化ホール。国際音楽協会など主催



橋本深雪

■第2回全日本芸術コンクール ヴァイオリン部門大学生・一般の部2位（1位該当者なし） 農頭奈緒（大2・ヴァイオリン）= 8月9日、神戸市産業振興センター。全日本芸術協会主催



持田賀津子

■第10回関西弦楽コンクール 優秀賞、審査員特別賞 吉田悠花（音楽院、大阪市立新森小路小4年・ヴァイオリン）▽優秀賞 沖本みなみ（音楽院、大阪市立堀江小4年）= 8月17日、ザ・フェニックスホール。日本弦楽指導者協会関西支部主催



農頭奈緒

■第21回和歌山音楽コンクール 声楽部門一般の部1位、和歌山市長賞 三河紀子（00年院修）= 8月27日、和歌山市民会館。ニュース和歌山、和歌山市など主催



吉田悠花

■第13回高槻音楽コンクール 一般の部1位、高槻市長賞 三河紀子= 8月31日、高槻現代劇場。高槻市コンサート協会主催



沖本みなみ

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催



三河紀子

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催



蔭山真理子

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催



小林あすき

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催

■第10回日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部2位 蔭山真理子（大3・ヴァイオリン）▽声楽部門大学の部3位 小林あすき（大3・メゾソプラノ）= 8月28日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催

このコンクールは有能な若い演奏家の発掘を目指し1984年に始まりました。トランペット部門には248人が出場し、5人が本選に進みました。本選の課題曲はフランスの作曲家、A・デザンクローの協奏曲「Incantation, Thème et Danse pour Trompette en Ut et Orchestre」。西馬さんは技術的にも高い評価を受け、4位入賞を果たしました。

西馬さんの話 本選の課題曲は音域も高く、吹ききることが大変でした。これからはいい音楽をたくさん聴いて、さらに力をつけていきたいと思っています。

森川さんは「コンチエルトで書くのは今回が初めてなので、ソロパートとオーケストラのバランスに苦労しました。これからも自分の内にある言葉を用いて、ハートのある音楽を書いていきたい」と将来への意気込みを話してくれました。表彰式は11月19日に東京で行われました。

ジグマノフスキー氏 本学客員教授に就任

フランスのバリ・エコール・ノルマル音楽院のパトリック・ジグマノフスキー教授（ピアノ）が11月3日付で大阪音楽大学の客員教授に就任しました。

パリ国立高等音楽院を卒業後、ドイツ政府の奨学金を得てミュンヘン国立音楽院で学び、数々の国際コンクールで入賞。演奏会活動も盛んで、カンヌ音楽祭、フランス音楽祭など数々の音楽祭に招かれています。現在はサンクルー市音楽院の学長を務め、02年からパ

白石温美さんを偲んで 友人が追悼演奏会を計画



私たちの大切な友、白石温美さん（88年大卒・声楽）が平成18年7月に星の世界へ旅立ってしまいました。「あっちゃん」の周りにはいつも笑い声があふれ、私たちを癒し、楽しませ

てくれていました。清澄なソプラノ。白いドレスでステージに立ち、人々を優しい気持ちにするあの歌声は、今でもはっきり心に残っています。

そこで私たちは、来年8月に会

り・エコール・ノルマル音楽院でも教えています。

名神口校地の隣接地取得

学校法人大阪音楽大学は10月17日、名神口校地（K号館）に隣接する中古車センター跡地262平方メートルを取得しました。



正門を出た右側で、校地と歩道に挟まれた場所。看板用の鉄製パイプは補修して使用する予定。

食や演奏を交えながら「あっちゃん」との思い出を語る集いを計画しました。会食のみでも結構です。演奏していただける方も、ぜひ一報ください。

日時は平成21年8月23日（日）11時～14時まで。

会場は神戸市東灘区岡本1丁目8番21号 ドンク岡本グルメ館レストラン「シェ・ドンク」。

問い合わせ先

辻本真二（88年大卒・声楽）

090-6969-9731

武内眞子（旧姓大橋）

080-3785-1151

幸楽会

福井県支部が15周年記念演奏会

10月25日秋晴れのなか、福井県の音楽の殿堂「ハーモニーホールふくい」で、支部創立15周年記念演奏会「幸楽会コンサートinふくい」が開催されました。

第一部は県支部推薦演奏会オーディション受賞者ならびにザ・カレッジ・オペラハウスに出演した会員の子弟によるピアノと声楽の演奏で、若い音楽家のみずみずしい音色を披露。第二部は在学生と会員によるピアノ・声楽・二重唱・ハープ・ヴァイオリン演奏と続き、世代ごとに演奏する多彩なプログラムに350人あまりの聴衆を魅了しました。

出演者は第一部「ピアノ」高木ひより・辻帆乃子・山口莉奈・野

大阪音楽大学後援演奏会

An Evening of Art Songs～歌曲のタベ～

1月29日（木）19時
兵庫県立芸術文化センター 小ホール 2000円
高津綾子 青谷理子 村上衣絵 木下裕子
井門亜美 藤美千代 加藤理彩子 西尾麻貴 ほか
☎090-3925-1818 ソワレの会

井上麻子Saxophoneリサイタル

2月1日（日）15時 3000円
兵庫県立美術館「芸術の館」アトリエ
サクソフォン 井上麻子 ピアノ 藤井快哉
ベリオ：ゼクエンツァ 9b
☎078-805-6351 神戸コンサート協会

《幸楽会》後援演奏会

Natsumi Tamai Eri Kawazoe PIANO JOINT RECITAL
1月18日（日）14時 ビッコロシアター小ホール
入場料1500円 ペア1組2000円
リスト：「ラ・カンパネラ」ほか
☎080-3135-7941

若手演奏家によるウィンター・コンサート
1月25日（日）14時 前売1000円 当日1500円
神戸芸術センター音楽ホール
原田幸子 谷宏子 内海寛子 石原綾乃 ほか
☎090-5974-8297 石原

鐘ヶ江直美 オーボエ デビューリサイタル
3月14日（土）18時 大牟田文化会館
前売2000円（学生1500円）
当日2500円（学生2000円）
鐘ヶ江直美 C.モントーゲ 大城伸悟
テレマン：オーボエ協奏曲
☎0944-55-3131 大牟田文化会館

訂正 本誌202号の5ページ「大阪音楽大学第51回定期演奏会」のなかで「前田恵美」とあるのは「前田恵実」さんの誤りでした。また、15ページの「大阪音楽大学後援演奏会」の「第3回玉響作品演奏会」で「前売3000円 当日2500円」とあるのは「前売2500円 当日3000円」の誤りでした。それぞれお詫びして訂正いたします。

支部長 堂田展江記

第42回幸楽会コンサート

～ニューイヤーコンサート～
春

2009年1月11日（日）14時
ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料 2000円

（チケットは幸楽会事務局でお求めください。）

片岡リサ 箏「春の海」
石橋栄実 ソプラノ「春の声」
北浦洋子 ヴァイオリン「スプリング・ソナタ」
〈問い合わせ〉幸楽会事務局
☎06-6334-2832 FAX06-6336-9834
ホームページ：<http://www.kougakukai.net/>
mail:kougaku@daion.ac.jp

坂卓史（声楽）上島一希、第二部「ピアノ」佐々木彩乃・堂田恵・堂田展江（声楽）石塚こころ・稲垣絵夢・中林久徳・佐々木開基（ハープ）岡田明日香（ヴァイオリン）山田恵子でした。最後に出演者全員でハープ・ヴァイオリン・ピアノトリオの演奏にのせて「ふるさと」を合唱し、盛会のうちに終了しました。

大学祭2008“fortissimo”が10月31日から11月2日まで開かれました。模擬店が並ぶ中庭では和太鼓やロック、ゴスペル、ミュージカルに加え、ピアノやリコーダーなどクラシックの演奏もたっぷり。人気お笑いタレントのエド・はるみさんらも出演し、会場を笑いの渦に巻き込みました。「今年はクラシックの演奏を増やしました」と



大学祭

オペラハウスも会場に



実行委員長の南堀義光さん。最終日、初めてオペラハウスで実現した学祭スチューデントオーケストラの公演では、代表の藤原克匡さんが「日頃お世話になっている地域みなさんと交流し、少しでも恩返ししたくて練習しました」と挨拶。総勢158人のオーケストラ、吹奏楽、合唱団と、ソリストの先生方が熱い演奏を繰り広げました。



ミレニアムホール特別講座

片岡リサの「ニューKOTO」

10月4日ミレニアムホール



講師 片岡リサ 日下部吉彦

箏の伴奏に英語の歌？ 古典にとどまらず、洋楽をアレンジした弾き歌いなど、ジャンルを越え「ニューKOTO」の世界を切り開く片岡リサ講師。宮城道雄の弟子、須山知行名誉教授に師事した片岡講師は、宮城道雄の進取の気性を継ぐ活躍ぶりです。片岡講師の箏、三味線、歌に、星田一山講師の尺八が加わり「黒髪」「春の海」「アメージング・グレイス」など8曲を演奏。凛とした箏の音色と鮮やかなテクニック、地歌とオペラの発声を自由に操る片岡講師のみずみずしい歌声に、会場は陶然と聞き惚れました。2部のトークコーナーでは、音楽評論家の日下部吉彦さんが、両講師に、文科省が音楽教育に導入した邦楽の現状を問い、教育談義で盛り上がりました。



第31回邦楽演奏会は11月28日18時からミレニアムホールで催されました。昨年までのザ・カレッジ・オペラハウスから今年は舞台を移しての公演で、大勢の聴衆が詰め掛けました。

プログラムは学生と教員による「都踊」、学生だけの「けしの花」、教員だけの「飛騨によせる三つのバラード」、池川由貴さん(大4)の箏による「数え唄変奏曲」。そして、最後は出演者全員で「ディヴェルティメント」を披露し、大きな拍手を受けました。

第31回邦楽演奏会

11月28日 ミレニアムホール

